

は禁裏にて唐粉箱也。

〔箋注倭名類聚抄六深豆 按類聚名義抄云、深豆、和語佐久川、佐久豆、即深豆音訛也、今俗呼

洗粉者即是、又今茶家有炭斗名、佐久豆箱者、蓋借古盛深豆器爲炭斗也。

〔茶道筌蹄三〕炭取之部

唐物籠 竹組 卜組あり

和物籠 竹組利休形 有馬土産、碎啄齋好、寐覺籠、卜組、藤組、宗全好、

菊の繪縁高 利休形 正親町帝へ進獻の形なり木杉の

瓢 利休形 手付は元伯好

神折敷 一閑張、大は元伯好、小は原叟好、

葛桶 一閑張、元伯好、大は底に輪なくして深し、小は底に輪ありて淺し、

炭臺 檜利休形なり、

桑箱 利休形、勝手物釜の仕懸仕舞に用ゆ、老人侘者は、坐敷に用てもよし、

〔雍州府志六〕壺盧 或謂葫蘆、又稱瓠瓜、倭俗謂瓢箪、又稱浮壺便、凡壺酒器也、盧飯器也、

○中 又一切伐短柄盛炭者、是謂炭斗、浮壺便、茶人專用之、是亦爲茶亭之一具、凡瓠瓢小者、處々有之、

其大而盛炭者、自近江國武佐來、又洛東田中村人、農業暇種之、到秋成實、其未熟時、好事茶人自行其棚頭、就蔓上之所有、而約其形狀之所稱心者、或以繩縛之、則其形隨所好而成、後伐之、陰乾而用之、其外皮微腐而有斑點者爲良、

〔茶器名物集〕二炭取

紹鷗カゴ、宗久ニ有、昔ハカコノ手、又ハ食籠炭取ハヤル、當世ハ瓢箪マデニ候、

〔茶道要録上〕炭之事